動き出す故郷

宇和島フォトフェスティバル 開幕

UWAJIMA SIGHTS 2025 いよいよ開幕

10月25日㈯に、宇和島が持つ魅力を国内外に発信するアートフォトの祭典「宇和島フォトフェスティバル 2025 UWAJIMA SIGHTS」が開幕します。宇和島城ときさいやロードを中心に、国内外の優れた写真家たちのアート作品が展示されるほか、さまざまな関連イベントも開催されます。美しい自然と豊かな暮らし、独自の文化と歴史を紡いできた宇和島で、アートの力によって既成概念を覆すような新しい写真体験をお届けします。アート写真でまちが美術館になる１カ月。ぜひご来場ください。

UWA JIMA SIGHTS 2025

ロゴデザインコンセプト

宇和島城とその外周の区画は、周辺地域が時代とともに目まぐるしく変化し拡張される中で、
街のシンボルとしてその存在感と形状を維持し続けています。
不等辺五角形の形をした外周の区画は現代にも通ずるシンプルで力強い形状をしています。
宇和島の古地図から抽出されたこの形を抽象化し、ロゴタイプのキービジュアルとしました。
等角ではない形状は故郷の新たな成長の躍動感を表現し、
カメラの絞り羽根にも見えるネガ反転する中央部のデザインは、
変化し始める街の瞬間を捉える現代写真のフェスティバルであることを併せて明示しています。

テーマ　Islands in Motion ― 動き出す故郷

入り組んだリアス式の海岸線と、島のように点在する小さな集落。
宇和島の風景は、まるで海に浮かぶ「動く島々」のように、ひとつひとつが独立しながらも、見えない絆でつながっています。
UWAJIMA SIGHTS 2025では、「Islands in Motion｜動き出す故郷」をテーマに、そんな宇和島の地理的・文化的特性に焦点を当て、そこに暮らす人々の営みや視点の変化に光をあてます。過疎化や高齢化、社会の分断が語られる現代において、この地には動きがあります。

移動、対話、記録、再生。

写真家たちが見つめるのは、静かな風景の中に潜む小さな変化、そして未来への兆しです。
かつては内に閉じていた場所が、いまゆっくりと外へと開かれていく――「動き出す故郷」は、
そんな宇和島の現在形をとらえるための、新しい視点を提示します。

[問い合わせ]
宇和島ARTプロジェクト事務局
（宇和島市 市長公室）　TEL：0895-49-7085

宇和島フォトフェスティバル 2025

UWAJIMA SIGHTS

2025.10.25 SAT – 11.24 MON

UWA JIMA SIGHTS 2025

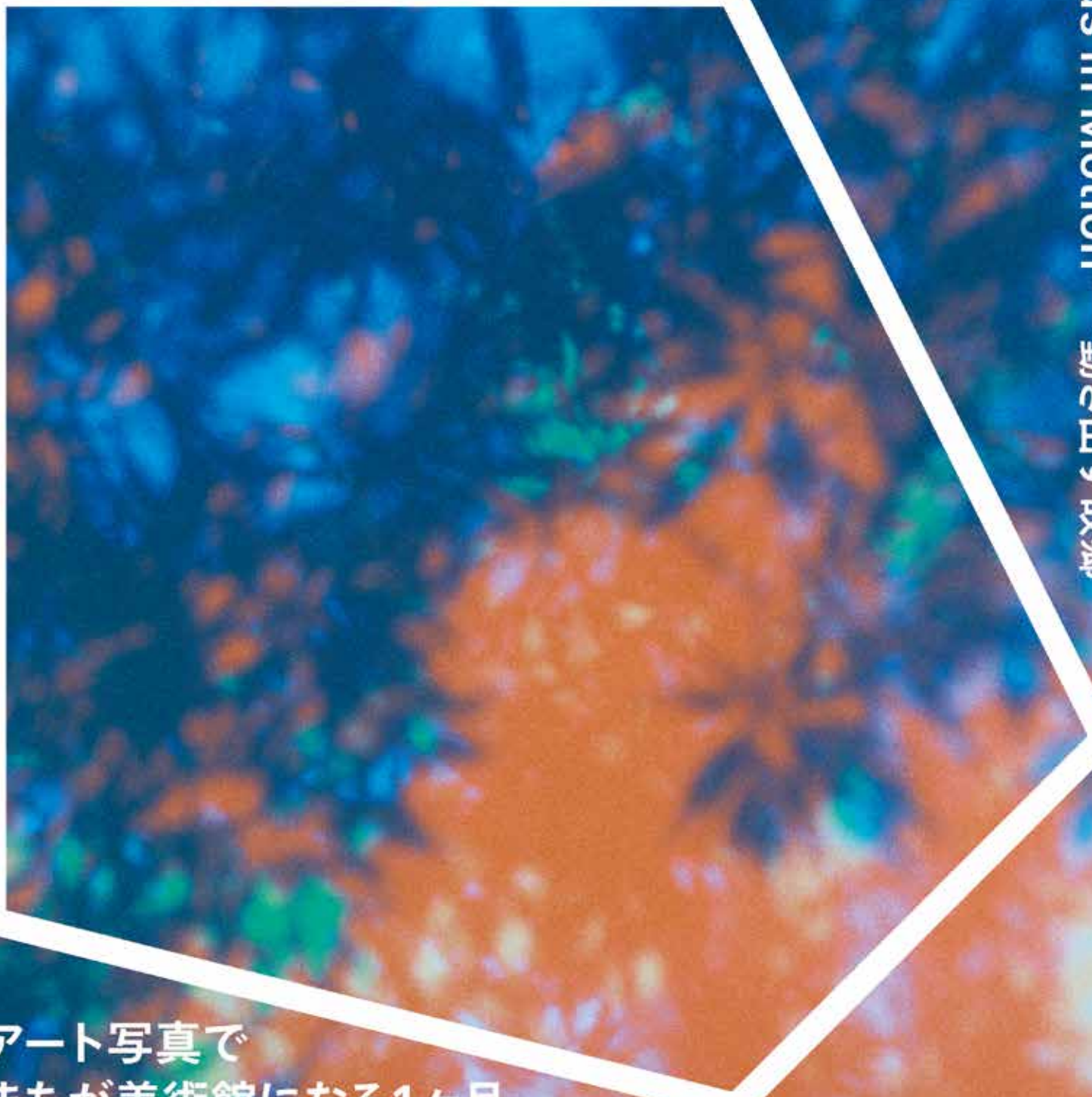
［会場］

宇和島城・中心市街地

［メディアパートナー］

IMA

Islands in Motion — 動き出す故郷



Yuji Watanabe (Iriki, Ehime Shui Fan/AWO) 2018

アート写真で
まちが美術館になる1ヶ月。

いよいよ開幕する「宇和島フォトフェスティバル 2025 UWAJIMA SIGHTS」の見どころを紹介します。

UWAJIMA SIGHTS 2025 参加アーティスト （9月12日現在）

安藤瑠美｜Rumi Ando [新作]

「虚構の東京を写真でつくる」というコンセプトのもと、広告や窓、室外機、電柱など都市の“ノイズ”をデジタル処理で徹底的に消し、建築の骨格だけを残して都市を”裸”の状態へと変換、再構成するシリーズ《TOKYO NUDE》。
写真文化における画像編集の創造性を開く試みでもある。
今回は舞台を宇和島に移し、漂白されたまちの新しい表情を創り出すコミッションワークを制作。
人びとの日常生活の喧騒に溢れた都市が、一転、静謐な都市像へと生まれ変わり、住民にとっては普段見慣れた風景が、来訪者にとっては初めての風景が、それぞれにまるで異次元のようになったとき、そこには何が見えてくるのか。

プロフィール
1985年岡山県生まれのフォトグラファー、レタッチャー。
東京藝術大学先端芸術表現科を卒業後、アマナグループ株式会社アン入社、その後独立。
主に写真メディアを用いて制作をしている。画像処理などを取り入れつつ、現実と虚構が入り混じった都市風景の写真制作をしている。
2007年エプソンカラーイメージングコンテスト2007 佐内正史賞、2019年THE REFERENCE ASIA「PHOTO PRIZE 2019」ナタリー・ハーシュドーファー選優秀作 受賞。
2025年写真集『TOKYO NUDE100』(トゥーヴァージンズ)出版。

岩根愛｜Ai Iwane

《KIPUKA》は、ハワイの日系社会に根づく盆踊りと、福島に伝わる「福島音頭」を手がかりに、移民の記憶と土地の連関をたどる長期プロジェクト。2006年から取材を重ね、夏の三カ月でハワイ各地の寺院約90カ所のボンダンスを記録し、後に福島にも拠点を置き両地域の響き合いを撮影した。変わるものと変わらないもの、共同体の持続、二つの土地を結ぶ盆唄が道標となり、物語が立ち上がっていく。タイトルの“キプカ”は溶岩流に囲まれて残る古い土地を指すハワイ語で、断絶の中に残る拠り所の比喩でもある。
今回、ハワイ・ホノルル市と姉妹都市の関係にある宇和島市で初めて展示される。

プロフィール
東京都出身。無形文化や自然伝承を紐解いて、写真および映像作品を制作、発表している。
2018年、移民を通じたハワイと福島の関わりを追った『KIPUKA』（青幻舎）を上梓、第44回木村伊兵衛写真賞、第44回伊奈信男賞、第3回プリピクテジャパンアワード等受賞。
著作『キプカへの旅』(太田出版, 2019)。『A NEW RIVER』『Coho Come Home』(bookshop M, 2022, 2024)

吉楽洋平｜Yohei Kichiraku

蚤の市で見つけた古い鳥の図鑑に切り抜かれて欠けたページを見つけ、まるで鳥が飛び立っていたように感じたということから生まれたシリーズ《BIRDS》。
吉楽は残りのページから鳥の挿絵を自ら切り抜き、森に“還して”撮影するというアイデアを思いつく。
紙に印刷された鳥たちは再び自然の中に身を置くことで、そこに新たな物語が創出される。自然の森の中に動かない鳥が佇むウィットに富み心温まる試みから生まれた不思議な光景によって、虚と実、不在と存在、記録と作為の境界が揺さぶられる。

プロフィール
1979年新潟県生まれ。2002年、日本大学芸術学部写真学科卒業。
主な受賞歴に「PHOTOBOOKS OF 2016」「Japan Photo Award」（2013年）、「写真新世紀 優秀賞」（2012年）など。
写真集『BIRDS』（2015年、amana）刊行。
個展に「Formless」（2016年、東京）、「BIRDS」（2015年／ 2014年、東京）。
グループ展に「浅間国際フォトフェスティバル2024」、「Modern Ornithologies」（2017年、英）他。

小池健輔｜Kensuke Koike ［新作］

いつ、誰が撮影したかもはや定かではない、アノニマスな古いファウンドフォトや絵葉書を使って、ユーモアとアイロニーに満ちた作品を制作する小池。
写真をカッターで切りながら、イメージを再構築することで、もともと持っていた意味は剥奪され、新たな意味が加えられる。
今回は、宇和島に滞在し、名産の果実であるみかんを題材にコミッションワークを制作した。
みかんの皮を一筆書きのように剥いてスキャナーで読み取らせて印刷。断片をもとの通りにつなぎ合わせていくと、原型に戻り、紙のみかんが完成する。
果実だった記憶の名残をとどめた、彫刻のような存在が現れ、町の中に意外な大きさや数で登場することで、身近な存在が持つ歴史や新たな魅力に気づくことになる。

プロフィール
1980年名古屋生まれ。
現在はイタリア・ヴェネツィアを拠点に活動する現代美術作家。
写真や絵葉書といったヴィンテージ素材を用い、「何も加えず、何も取り除かず（No More, No Less）」という哲学のもと、カットと再構成のみで新たなイメージを生み出す独自のコラージュ作品で国際的に高い評価を受ける。
その緻密で詩的な作品は、視覚の錯覚と現実の境界を問い直し、既存の記憶やイメージに新たな物語を付与する。
世界各地で展覧会を開催。

TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH ［新作］

リサーチに基づいて、都市を「写真」で記録／表現／アーカイブする実験的プラットフォームとして、制作を展開してきたTOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH。
これまでは東京を主な対象としてきたが、今回は、コミッションワークとして小山泰介、築山礁太、河原孝典、３名の写真家が宇和島をリサーチする「UWAJIMA PHOTOGRAPHIC RESEARCH」を敢行。
きさいやロード、宇和島城、道の駅きさいや広場、闘牛場、和霊神社、遊子の段畑や細木運河、九島、市内のいくつかのスーパーマーケットや古本屋、鮮魚店、木屋旅館周辺などを歩き、図書館に所蔵されている過去の写真や地図なども参照しながら、作品を制作する。

プロフィール
TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCHは、写真家・小山泰介を中心に、広く写真表現に携わるアーティストや研究者からなるアーティスト・コレクティブ。
「都市の多角的なリサーチ」や「現代写真の実践的な探求」などをミッションとして、未だ見ぬ都市と社会と人々の姿を可視化し、見出されたヴィジョンを未来へ受け継ぐことを目的とした活動をおこなっている。
これまで、アートプロジェクトや展覧会、フィールドリサーチやコミッションワーク、各国大使館や国内外の美術大学との共同プログラムなど、６年間で60件を超えるプロジェクトを約70名/組のアーティストらとともに実施。
近年のプロジェクトに『YURAKUCHO ART SIGHT PROJECT Vol.05』（YURAKUCHO PARK、東京、2025）、『New Anxieties』展（N/A & FF Seoul、ソウル、2025）、スイス・日本国交樹立160周年記念写真展『SUPER NATURAL!』（YAU CENTER、東京、2024）など。

濱田祐史｜Yuji Hamada ［新作］

《RGB》は濱田の代表作のひとつ《C/M/Y》に続く第二弾として、光の白色が光の三原色（赤、緑、青）が混ざり合ってできているということに不思議な感覚を覚えたことをきっかけに制作されたシリーズ。
「私たちは何かを見る時、見えているものや状景を頭の中で取捨選択していて、光と影は取り立てて意識されることはない。
その光と影という普遍的な現象に対峙して、フィルムに露光された光の色自体を見てみたくなった」（濱田）。
影を被写体として、白をバックにR（赤）G（緑）B（青）のフィルターを使用して多重露光で撮影。
色の既成概念を取り外した写真からは、純粋にそこにある色を見ることができる。
今回は、宇和島に滞在制作し、宇和島にまつわるものの影でコミッションワークが創られる。

プロフィール
1979年大阪府生まれ、奈良県育ち。
2003年に日本大学芸術学部写真学科卒業後、東京を拠点に国内外で活動。長時間露光中にパフォーマンスを行い撮影したり、アルミ箔を山に見立て写真の真実性を見つめたり、一枚の写真を物理的に三枚のレイヤーに分解し再構成したり、東京湾の海水を使って感光液を作り太陽で焼きつけたり、撮影した日に食べたものでフィルム現像するなど、様々な手法を用いて写真の原理に基づき概念を構築し、自身の記憶、偶然などを介して写真の多様な表現機能に根ざしたパフォーマティブな作品を制作している。
主な写真集に「light there」(2023, fragile books)、「Primal Mountain」(2019, torch press)、「C/ M /Y」(2015, fw photography)、「photograph」(2014,lemon books)などがある。

本城直季｜Naoki Honjo［新作］

鳥のような俯瞰の視点と、カメラのレンズの向きや位置を動かして、ピントやパース（遠近感）をコントロールするティルト／シフトを巧みに用いて、都市や自然などの風景をまるでジオラマのように見せる作品で知られる本城。
高所から切り取られた街路や港湾や城などの人工物は高彩度と浅い被写界深度によってミニチュア模型のように浮かび上がり、人や車はおもちゃの駒のように見える。
現実のスケール感を撹乱し、都市の構造や人間活動のリズムを遊戯的かつ冷静に観察する。
今回は宇和島の上空から、町を構成する大切な要素である宇和島城や鯛の養殖場、闘牛場などシンボリックな場所を中心に撮影。コミッションワークが誕生する。

プロフィール

1978年東京都生まれ。東京工芸大学芸術学部写真学科卒業後、同大学大学院メディアアート専攻修了。
航空写真や望遠レンズによる浅い被写界深度を用いた独自の手法で、実在の都市や風景をまるでジオラマ模型のように写し出す作品で広く知られる。
2006年、写真集『small planet』で木村伊兵衛写真賞を受賞。以降、都市景観や人々の日常、自然風景を独特の視覚効果で捉え、現実と虚構の境界を探る。
主な個展に、「（un）real utopia」（東京都写真美術館、2022）など。

森山大道｜Daido Moriyama

人間の欲望の渦巻く都市の姿を膨大な写真でコピーしてきた日本を代表する写真家・森山大道。
『宇和島』は、2004年『Coyote』創刊号のために、宇和島在住で、森山とも交流の深い美術家・大竹伸朗を案内人に町を歩き、夢中で撮ったカラーのスナップで構成されるシリーズ。
2012年にも縁があり宇和島を再訪して、多数の写真を撮影され、過去２度ほど写真集にもまとめられている。
モノクロの印象が強い作家が〈色〉で都市の記憶と空気をすくい上げた。人びとや路地、看板からは昭和の残り香りが漂うが、その高密度なイメージから町の息遣いや記憶が強烈に伝わってくる。
今回、里帰りのように初めての宇和島での展示が実現する。

プロフィール

1938年大阪生まれ。写真家・岩宮武二、細江英公のアシスタントを経て1964年に独立。写真雑誌などで作品を発表し続け、1967年「にっぽん劇場」で日本写真批評家協会新人賞受賞。1968-70年には写真同人誌『プロヴォーク』に参加、ハイコントラストや粗粒子画面の作風は“アレ・ブレ・ボケ”と形容され、写真界に衝撃を与える。
ニューヨーク・メトロポリタン美術館やパリ・カルティエ現代美術財団で個展を開催するなど世界的評価も高く、2012年にはニューヨークの国際写真センター（ICP）が主催する第28回インフィニティ賞生涯功績部門を日本人として初受賞。
2012年、ウィリアム・クラインとの二人展「William Klein + Daido Moriyama」がロンドンのテート・モダンで開催され、２人の競演は世界を席巻した。
2016年、パリ・カルティエ現代美術財団にて２度目の個展「DAIDO TOKYO」展を開催。2018年、フランス政府より芸術文化勲章「シュヴァリエ」が授与された。
2019年、ハッセルブラッド財団国際写真賞受賞。
2021年、パリのMEP（ヨーロッパ写真美術館）にて東松照明との二人展「Tokyo: 森山大道＋東松照明」を開催。
2022年、アムステルダムやローマ、サンパウロ、北京で個展を開催するなど、現在も精力的に活動を行っている。

IMA next

IMA nextは世界で活躍できる写真家を送り出すフォトコンテストです。このたび、IMA nextとUWAJIMA SIGHTS 2025のコラボ企画として、フォトコンテストを開催。
今回選ばれた作品は、この「UWAJIMA SIGHTS 2025」で展示されます。テーマを問わず広く公募しますので、自由な発想と豊かな表現力で、１枚でもシリーズでも、自身の自信作をご応募ください。写真の現在と向き合う新しい才能に出会えることを楽しみにしています。

写真雑誌『IMA』

IMAプロジェクトは2012年以来、“LIVING WITH PHOTOGRAPHY” をテーマに、さまざまなアプローチで日常の中でアートフォトと親しむ提案をしています。
その活動の軸となる写真雑誌『IMA』は、世界中の旬なフォトグラファーの新しい写真表現を毎号紹介（現在は年２回発行）。若手写真家の発掘にも力を入れています。
またIMA ONLINEを通して、日々写真にまつわるさまざまなニュースや記事を配信しています。
IMAはあらゆる角度から写真を楽しめるプラットフォームです。

and more …

UWAJIMA SIGHTS 2025 実施イベント

UWAJIMA SIGHTS 2025 期間中は、アーティストとの交流イベントなどが開催されます。詳細は公式ホームページやインスタグラムで随時発信します。

・UWAJIMA SIGHTS 2025 展示作品ガイドツアー

宇和島市に点在するフォトフェスティバルの展示作品やアーティストについて解説する、詳細なガイドツアー。
解説：太田睦子 (エキシビジョンディレクター)
日時：10月25日㈯ 10時30分～ 12時　会場：中心市街地～宇和島城

・不定期にどこかに現れる本屋「Photon Observation Club」

アーティストが運営するフォトフェス期間中のみオープンするポップアップ書店。
アーティスト：吉楽洋平、迫鉄平、濱田祐史 ほか
日時：10月25日㈯～ 26日㈰ 11時～ 18時　会場：きさいやロード内

・プレゼント企画「はじめての写真集」

ポップアップ書店では小学１年生から高校３年生までの宇和島市の子供たちだけに、写真雑誌「IMA」が提供する好きな写真集を１冊、無料でプレゼント！
主催：『IMA』編集部 (UWAJIMA SIGHTS 2025 メディアパートナー)
日時：10月25日㈯～ 26日㈰ 11時～ 18時　会場：きさいやロード内

・ワークショップ「シルクスクリーンスタンド ポック」

アーティストが写真を使ってシルクスクリーンの体験型ワークショップを開催。Tシャツやトートバッグなど、お手持ちの生地にシルクスクリーンをその場で施します。
アーティスト：濱田祐史、OBK.404 、迫鉄平
日時：10月25日㈯～ 26日㈰ 11時～ 18時　会場：きさいやロード内

・ワークショップ「新大陸」をつくろう！
みかんの皮が商店街をジャックし、市民の手によって増殖していく！みかんという立体を平面にして、再び立体に戻す行為を「新大陸」に見立てたユニークなアート制作を体験。
アーティスト：小池健輔　期間：10月25日㈯～ 26日㈰　会場：きさいやロード内

UWAJIMA SIGHTS 2025 関連企画「US and」「US more」

UWAJIMA SIGHTS 2025 開催に合わせて、宇和島ARTプロジェクト公式イベント「UWAJIMA SIGHTS and (US and) 」、連携イベント「UWAJIMA SIGHTS more (US more) 」が開催されます。
詳細は公式ホームページやインスタグラムで随時発信します。

宇和島ARTプロジェクト公式イベント「US and 」

・PARK SIDE GALLERY
期間：10月１日㈬～令和８年１月12日㈪㈷　会場：天赦公園

・Uwajima Creative Community「百面牛鬼」
期間：10月25日㈯～ 11月24日㈪㈷ 10時～ 17時　会場：きさいやロード内

・Uwajima Creative Community「アオ ノ マチ ～サイアノタイプで記録するまちのキオクと風景～」
期日：11月16日㈰　会場：BARBER CRUISE

・写真家とのトークセッション ～ Horibata Life Career Design Talk ～
ゲストスピーカー：宮脇慎太郎 (写真家)　日時：10月25日㈯ 18時30分～ 20時　会場：パフィオうわじま
ゲストスピーカー：石川直樹 (写真家)　日時：10月31日㈮ 18時30分～ 20時　会場：パフィオうわじま

・高校生の作品制作と展示 ～ Horibata Creative Curriculum ～
期間：10月25日㈯～ 11月24日㈪㈷　会場：SLOWS COFFEE

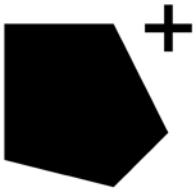
・対話型アート鑑賞ツアー
ファシリテーター：清家由佳 (愛媛県アートコミュニケータ「ひめラー」)　日時：10月26日㈰、11月２日㈰、11月３日㈪㈷ 10時～ 11時、15時～ 16時　会場：きさいやロード内、宇和島城

・「会場サインをつくろう」ワークショップ
日時：10月26日㈰ 10時～ 12時　会場：シロシタ

・宇和島城夜間開城
日時：11月23日㈰㈷ 18時～ 21時　会場：宇和島城

・ESECAN (中村和孝・中澤保人) トークイベント
ゲストスピーカー：中村和孝 (写真家)、中澤保人 (クリエイティブディレクター)
日時：11月24日㈪㈷ 14時～ 15時30分　会場：パフィオうわじま

連携イベント「US more 」



各種団体などが主催するイベントです。